



東京発電株式会社石岡第一発電所



一般公開には予想を超える67名の見学者

自然の循環エネルギー を生かす水力発電所

登録文化財に指定された現役 石岡第一、第二発電所を見学

さる10月20日は「近代化遺産の日」。これに合わせて、大北川沿いにある東京発電㈱の水力発電所が一般に公開されました。

中郷町石岡に第二発電所、その上流に第一発電所があります。ともに建造物として、登録有形文化財の指定を受けました。

第一発電所は明治44年、第二発電所は大正2年に発電を開始し、現在にいたつています。かつてはたくさ

が、いまは無人で、日立市にある事務所から遠隔監視制御をおこなっています。2つの発電所とも、ダムを持たない自流式の水力発電所です。川の水を使用するので、地球温暖化につながる心配はありません。逆に、温暖化の影響で降雨量が不安定になつたりすることに最も影響を受ける存在ともいえます。

このほか水沼ダムを利用
する花園川発電所も含める
と、3つの水力発電所で、
市内の家庭の8割ほどの電
気をまかなえる計算になり
ます。いわば、電気も地産
地消でがんばつて いるわが
町を再発見することができ
ました。

新たな半世紀へ

市制施行50周年 記念式典開催

事務局によれば、にぎやかな子どもたちもいれば、おとなしい学校もあり、ずいぶん学校の個性もあるとのこと。いっぱい勉強して、みんなが住みやすい社会をつくるためにも力を発揮してください。

北京城民報

日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行
インターネットでも
ご覧いただけます。

<http://www.jcp-ktib.com/>

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
13-3416

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

最大6100kW。年間3800万kW時で、東京電力を通じて、地域に供給されています。一般家庭で使う電



議場を冒険する華川小の子どもたち

地元を学ぶ

小学校3年生の社会科の学習のなかに、地域のいろいろな施設見学があります。市役所もそのひとつ。

10月21日、市制施行50周年の記念式典が白浜会館で催されました。本市は1956年に南中郷、磯原、関南、大津、平潟、関本、華川（前年に磯原町と合併）の7ヶ町村が合併して県内の15番目の市として誕生しました。合併当初は炭坑が隆盛をきわめており、人口も6万人を数えていました。

なお、配布された資料には、市広報にも掲載された中学生からのメッセージがありました。そろつて、北茨城市的自然を大切にしたいと書いているのが印象的でした。私たち大人への課題であります。